

令和3年（2021年）10月1日  
熊本県教育庁教育総務局文化課

## 令和3年度「熊本県近代文化功労者」の決定について

県教育委員会において、本年度の熊本県近代文化功労者を下記3名（現存者2名・故人1名）に決定しました。

また、顕彰式を11月11日（木）に県庁行政棟本館5階知事応接室にて行います。

### 記

#### 1 顕彰者

○<sup>あらき しゅくろう</sup>荒木 淑郎 氏（学術） 昭和2年（1927年）生（満94歳）

日本を代表する神経内科医として、数多くの臨床研究及び基礎医学研究を牽引した。特に難病である家族性アミロイドポリニューロパチーの原因究明、遺伝子診断法の確立および分子生物学的手法を用いた病態解明を行い、本領域において世界の研究をリードした。

○<sup>わたなべ きょうじ</sup>渡辺 京二 氏（文化） 昭和5年（1930年）生（満91歳）

著述家・日本思想史家として、外国人や庶民から見た近世・近代について独自の新たな歴史観を切り開いた。主な著作には『逝きし世の面影』『黒船前夜 ロシア・アイヌ・日本の三国志』、『バテレンの世紀』等があり、各種の賞を受けている。また、故石牟礼道子氏とは編集者として深く関わり、同氏の多くの作品を世に出している。

○<sup>のじろ きんいち</sup>野白 金一 氏（産業） 故人 昭和39年（1964年）没（享年87歳）

我が国における酒造技術の先達として、熊本の酒造りの普及・発展に多大な業績を残され、「酒の神様」と呼ばれている。野白式天窓の考案や二重桶式の仕込み方法等、野白式吟醸造りを確立するとともに、「熊本酵母」の開発に成功。以来、熊本酵母は約半世紀にわたって全国の酒造家たちに強く支持されている。

#### 2 顕彰式

日時：令和3年（2021年）11月11日（木）11時～11時45分

会場：熊本県庁行政棟本館5階 知事応接室

#### （参考）熊本県近代文化功労者の顕彰について

昭和23年度の第1回から本年度で71回目を迎える。本県出身者又は在住者（故人を含む）で、教育・学術・芸術・宗教・産業等あらゆる分野で近代文化の発展に貢献し、その功績が顕著である方を顕彰しており、これまでの顕彰者の累計は今回の3名を含めて302名に及ぶ。

#### <問い合わせ先>

熊本県教育庁教育総務局文化課

堀（内線6714）

園川（内線6720）

TEL 096-333-2704 FAX 096-384-7220



荒木 淑郎 (学術)

昭和2年(1927年)1月1日生  
(満94歳)

【写真は本人提供】

荒木氏は熊本市で生まれる。熊本大学熊本医科大学を卒業後、アメリカ合衆国コロンビア大学等で臨床神経学の研究をした後、九州大学医学部助教授、川崎医科大学内科学教授、宮崎大学第三内科教授、熊本大学医学部第一内科教授、熊本大学医学部附属病院長を歴任し、平成4年熊本大学を退官した。九州大学、川崎医科大学、宮崎大学では神経内科を新設すると共に、日本神経学会の設立に尽力し、日本の神経内科学の創設に中心的な役割を果たした。

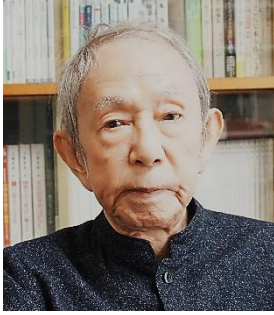
氏は、日本を代表する神経内科医として、数多くの臨床研究及び基礎医学研究を牽引した。特に、特異タンパクのアミロイド物質が末梢神経、自律神経系、心臓、腎臓、消化管、眼などに付着して臓器障害を起こす難病である家族性アミロイドポリニューロパチーの原因究明、遺伝子診断法の確立および分子生物学的手法を用いた病態解明を行い、本領域において世界の研究をリードした。また、厚生省アミロイドーシス調査研究班班長、厚生省筋ジストロフィー及び関連疾患の病因と治療法開発に関する研究班長として難病研究に貢献した。

熊本大学を定年退官後も、臨床医として神経疾患患者の診療に従事すると共に、後進の育成を精力的に行い、熊大第一内科教授時代の門下生と共に、熊本県内の神経難病診療体制および脳卒中診療体制を構築し、今日の診療体制の基礎を築いた。

さらに、水俣病の臨床研究を行い、認定審査会の委員・会長および中央公害審議会委員を務めた。平成元年には、WHO IPCS (国際化学物質安全性計画) 会議に日本代表として参加した。

これらの功績から、環境保全功労者表彰、武田医学賞、熊日賞など多数の賞を受賞。また平成17年に瑞宝中綬章を受章した。

昭和57年4月～平成4年3月	熊本大学医学部第一内科教授
昭和60年4月～平成元年3月	熊本大学医学部附属病院長
平成4年3月	熊本大学定年退官
平成4年4月	熊本大学名誉教授
昭和45年1月～昭和53年10月	熊本県公害健康被害認定審査会委員
昭和54年2月～平成9年1月	臨時水俣病認定審査会委員及び委員長
平成2年5月	中央公害対策審議会委員



渡辺 京二 (文化)

昭和5年(1930年)8月1日生  
(満91歳)

【写真は本人提供】

渡辺氏は、京都府で生まれる。少年期の7年間を北京・大連で過ごし、昭和22年(1947年)帰国後、父母の出身地である熊本へ移住した。第五高等学校に入学するが病氣療養のため休学、その後、法政大学社会学部へ入学した。法政大学卒業後、「日本読書新聞」記者となり、昭和40年(1965年)には帰熊、その後は福岡市の予備校・河合塾講師、熊本短期大学講師、熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授を歴任した。

氏は、日本の近世及び近代の著述家・日本思想史家として国内外の膨大な資料を渉猟・精査し、外国人や庶民から見た近世・近代の日本について、独自の新たな歴史観を切り開いたことで全国に知られる。その成果は、これまでに単行本約50冊として刊行。主要な著作は『北一輝』(1978年)毎日出版文化賞、『逝きし世の面影』(1998年)熊日出版文化賞、和辻哲郎文化賞、『黒船前夜 ロシア・アイヌ・日本の三国志』(2010年)大佛次郎賞、『バテレンの世紀』(2018年)読売文学賞を受賞している。また、平成22年(2010年)に熊日賞を受賞している。現在も熊本日日新聞で「小さきものの近代」を連載中である。

他方、若い頃から、「熊本風土記」「炎の眼」「暗河」など文芸雑誌を創刊し、評論等を発表、編集者としても活躍した。熊本の地で文学者仲間と切磋琢磨し、その輪を広げ、新しい才能の発掘、作品発表の場を作り続けてきた。その作品群は全国へ向けて発信され、熊本の文学界の一角を牽引することにつながった。特に石牟礼道子氏とは半世紀にわたり編集者として深く関わり、「海と空のあいだに」(のち『苦海浄土』と改題)など石牟礼氏の多くの作品を世に出した。

そのほか、膨大な読書の蓄積から選りすぐりの作品を選んで分かりやすく紹介した『私の世界文学案内』、『日本詩歌思出草』など、読書案内の刊行も多く、幅広い層から支持され読まれ続けている。

- 昭和37年 法政大学卒業後、「日本読書新聞」記者となる(昭和39年退職)
- 昭和40年 帰熊、書店「新聞の家」に勤務
- 昭和42年 学習塾を開く
- 昭和56年 福岡市の予備校・河合塾の講師着任(平成18年まで)
- 昭和57年 熊本短期大学で「日本文化論・西洋文化論」の講座開講
- 平成22年 熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授(平成23年まで)



野<sup>の</sup>白<sup>じろ</sup> 金<sup>きん</sup>一<sup>いち</sup>（産業） 故人

明治 9年（1876年）12月18日 生

昭和39年（1964年）10月22日 没

（享年87歳）

【写真は熊本酒造組合提供】

野白氏は、島根県松江市中原町に生まれる。東京高等工業学校応用化学科を卒業後、明治34年に松江税務管理局技手となり、明治36年に熊本税務監督局に転任した。熊本県赴任後、県内を巡回し酒造改善の指導にあたった。明治42年、熊本県酒造研究所の設立に貢献。大正6年には広島税務監督局鑑定部長への転任を命じられるが、大正8年に税務監督局を依願免官し、熊本県酒造組合に着任、熊本の酒造りの発展にさらに尽力した。大正11年には酒造研究所に酒造蔵を建設、「香露」の銘柄で製造を開始することになった。氏の指導により県内酒の品質は目覚ましく向上し、昭和5年には全国品評会で1位、2位、3位、5位と上位を独占した。

氏は、明治43年に麹室の換気と温度調節に画期的な効果をあげる「野白式天窓」を考案した。この天窓は麹室の便利な換気装置として広く全国各地で用いられることになった。吟醸造りでは、二重桶式の仕込み方法や上槽時の首吊り法（袋吊り法）等の創意工夫を数多くこらし、温暖な九州の地でも可能な「野白式吟醸造り」を築き上げ、この技術は現在でも広く活用されている。

また、熊本酒造研究所の醪から酵母を分離する試験を続け、昭和27年頃に吟醸用「熊本酵母」の開発に成功した。「熊本酵母」は、日本醸造協会からの強い要望により、昭和43年に「協会9号酵母」として採用され、全国への頒布が始まった。以来、約半世紀にわたって吟醸酒造りには欠かせぬ酵母として全国の酒造家たちに強く支持されてきた。低温で良く湧き、華やかな芳香、まろやかな風味を醸す「9号酵母」の全国進出は、昭和60年代の吟醸酒ブームに大きく貢献した。多くの功績を残された野白氏は、現在では「酒の神様」と呼ばれている。

これらの功績から昭和31年に酒造功労者として黄綬褒章、昭和39年に勲五等旭日章を受章した。

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 明治34年 | 東京高等工業学校応用化学科卒業。松江税務管理局技手 |
| 明治36年 | 熊本税務監督局に転任                |
| 大正6年  | 広島税務監督局鑑定部長転任             |
| 大正8年  | 依願免官。熊本県酒造組合技師兼主事         |
| 昭和25年 | 熊本県酒造組合常務理事、技師兼主事         |
| 昭和32年 | 株式会社 熊本県酒造研究所取締役社長        |